

フォーパ

～ 女性建築士の輪 ～

奈良県建築士会 女性委員会

2019 年 冬号

第 96 号



興福寺

目 次

■ 第4回くらしとすまいを見つめるセミナーに参加して	武市 啓子	P 1-4
■ 職人さんに聴く!! ― 建築板金職人 中辻 安則 氏		P 5-6
■ 第37回近畿建築祭滋賀大会に参加して	庄田 尚代	P 7
■ 私の好きな ディテールを考えること	岡田 伸子	P 8
■ 新会員紹介	福永 香奈	P 9
■ 編集者が選ぶフォトジェニックスポット		P10
■ 今後の事業予定		P10

第4回くらしとすまいを見つめる

セミナーに参加して

武市 啓子

11月2日・3日、近畿建築士協議会女性部会『第4回くらしとすまいを見つめる 継続セミナー「誰もが最期まで村で暮らす」ための新たな集落づくり～十津川村の取組に学ぶ～』に参加しました。

2011年（平成23年）9月に村を襲った紀伊半島大水害を機に、「村」の再生・復興、新たな集落づくりへとつながった取組について学びました。近建女全体で39名の参加、内、奈良県建築士会からは、7名の参加がありました。近鉄八木駅集合、当日は天気も良くマイクロバス2台に分乗して出発しました。



谷瀬の吊り橋

十津川村では紀伊半島大水害の後、「誰もが最期まで村で暮らす」ための「新たな集落づくり」への取組として、以下の住宅・施設の建設を行いました。

- ① 木造応急仮設住宅（11棟：30戸ー平成23年）
- ② 木造復興モデル住宅（2棟：2戸ー平成25年）
- ③ 木造復興公営住宅（15棟：15戸ー平成25年）
- ④ 「高森のいえ」（一般向け住宅：1戸、高齢者向け住宅：8戸、ふれあい交流センター、特別養護老人ホームセンターー平成29年）

① 木造応急仮設住宅とは、十津川大工9者により沼田原団地、谷瀬団地、湯之原団地、平谷団地計4カ所に建設された仮設住宅です。特徴として、「開放廊下（デッキ）」を設け、コミュニティの場が確保されたこと、又、冬の寒さ対策の為に二重サッシや、内装の木質化などによって断熱効果が得られたことがあげられます。材料は奈良県産材使用率90.4%（内、十津川産材60.35%）です。なお、現在は撤去されています。

セミナー1日目は、谷瀬の吊り橋を渡り、谷瀬地区の「こやすば（集会所＋休憩所）」で、お昼ご飯に地元のめはりずしと味付けこんにゃくと、これまた美味しいなめこ汁をいただき、谷瀬地区の木造復興公営住宅（4戸）（前述③）の見学をしました。



「こやすば」にて



木造公営復興住宅（谷瀬地区）

次に、「高森のいえ」（前述④）では十津川村役場技師の乾 耕輔氏より 2011 年 9 月の大水害後から現在までの復興の取組を説明していただきました。続いて、設計監理担当の㈱アルセッド建築研究所の益尾孝祐氏より各地の災害からの自立再建住宅支援についての説明があり、その後、十津川村の取組についての説明がありました。

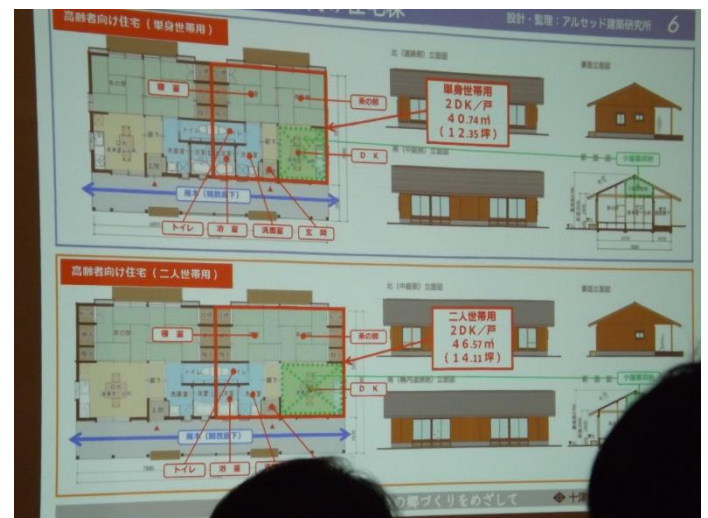


高森のいえ

大水害の後、4 団地 30 戸の木造応急仮設住宅（前述①）で「みんなで一緒に楽しく暮らせた。」との声が多くあがりました。この仮設住宅での暮らし方を参考に「高森のいえ」を中心にして、各集落から離れて暮らしている人たちの安心拠点を作り「助け合い支えあいながら村で最期まで幸せに暮らすこと」を目標とした復興住宅の建設が始まりました。

また、十津川村の伝統的な民家を調査し、「十津川村にふさわしい住まいづくり 25 の手法」をまとめ、十津川大工とのワークショップや村民へのグループヒアリングを行い、その上で村の十津川産材を使用した復興モデル住宅に取り組みました。材料については、十津川村の人工林比率が「杉：桧＝7：3」ということで、杉に決定されました。

木造復興公営住宅（15 棟：15 戸）は、現在谷瀬地区に 4 戸、高森地区に 11 戸。



木造公営復興住宅（高森地区）

セミナー2日目は、世界遺産熊野参詣路小辺路の果無（はてなし）集落に足を延ばしました。集落の両サイドから風が吹き抜けてなんて気持ちのいいところなんだろうと思いました。天気も良いし、世界遺産の写真の中に飛び込んだみたい不思議な気持ちでした。



熊野参詣路小辺路 石碑



熊野参詣路小辺路 果無集落にて

そこから玉置神社を巡り、樹齢3000年と言われる神代杉に触れ、木材加工流通センターで木造復興モデル住宅2棟を見学しました。

そのモデル住宅とは「十津川村にふさわしい住まいづくり25の手法」を使った「スバルノフキオロシ」や「十津川杉4寸以上の骨太の柱梁」と「真壁構造」などによるものでした。



木造復興モデル住宅（外観）



木造復興モデル住宅（内観）



木造復興モデル住宅にて

セミナー最後は、重要伝統的建造物群保存地区に指定されている五條市の五條新町通りをボランティアガイドの方の案内で、滋賀士会の山本会長、奈良士会の米村会長と一緒に巡りました。江戸時代からの町屋や蔵が立ち並ぶ様はみごとでした。今でも住宅やカフェとして使われています。やはり建物は人が使って初めて生きるのだと思いました。



五條新町通りの民家



五條新町通りの街並み



五條新町通りの街並み

はじめは、十津川村が大災害からの復興のために新しい集落を作る際、木造の応急仮設住宅を建設し、又そこに地場の十津川産材を使用したところにひかれました。

しかし説明を聞いていくうちに、実際に住んでいる人たちの声に耳を傾ける地道な努力とそれを実現していく事に静かなゆぎない力を感じました。そして年をとっても最期まで地元で生き生きと暮らせるように ～「誰もが最期まで村で暮らす」ための新たな集落づくり～ にみんなで知恵を出し合って一つずつ解決していけばいいなと思いました。

十津川村で、お腹も心もいっぱいになった 2 日間でした。

パワフルな近建女の皆様、2 日間お疲れ様でした。

今回の職人さんは 建築板金

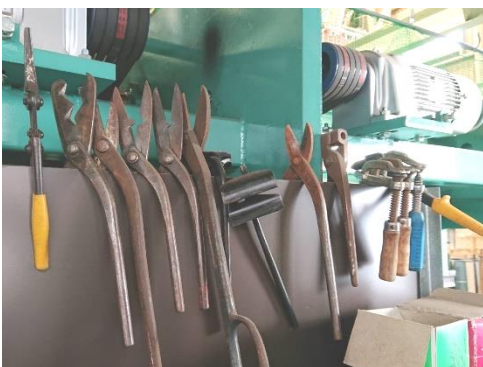
中辻正鋳金属興業(株) 中辻 安則 氏

Q1 建築板金とはどんな職種ですか？

A 金属板を加工・成型し、それらを使って屋根を葺いたり、外壁を貼ったり、樋の取り付けをしたりしています。



鉄板折り曲げ機



鋏 (鉄板の切断・折り曲げに使う)

Q2 どのような種類の金属板を扱っていますか？

A 銅板、ガルバリウム鋼板、ステンレス板、アルミ板などです。

Q3 なぜ職人さんになったのですか？

A 祖父の代から家業として板金店を営んでいて、子供の頃から工場で鉄板をたたいたり、加工したりする姿を見て興味を持っていましたし、また職人さんの働く姿を見てカッコいいなと子供心に感じていましたので、自然な流れで家業を継ぎました。

Q4 どのような建物を施工していますか？

A 当社では一般の住居から大規模な工場、学校施設などの公共建物、寺社仏閣などの施工をしています。

Q5 施工した中で印象深い建物がありますか？

A 奈良少年刑務所や東大寺大仏殿・奈良国立博物館、伊丹空港の格納庫など数多くあります。施工した件数はわかりませんが、関わらせてもらった建物はどれも良く覚えています。

[施工例]



某公共施設 (トイレ)



某高校屋根



一般住宅

第37回近畿建築祭滋賀大会に参加して

庄田 尚代

平成30年11月17日(土)、第37回近畿建築祭滋賀大会が比叡山延暦寺にて開催されました。テーマは、『^{とき}歴史、^{やま}山、^{うみ}湖～日本の仏教の母なる山 比叡山延暦寺を巡る～』。奈良県建築士会女性委員会からは7名が参加いたしました。色鮮やかな紅葉を期待していたのですが、猛暑のせいか、燃えるような朱色に染まる美しい景色とまでは、、、。



【当日のスケジュール】

- 記念式典 延暦寺会館
- 仰木太鼓保存会の方々による仰木太鼓演奏
- 基調講演「世界遺産・国宝延暦寺根本中堂の魅力と平成の大修理」滋賀県文化財保護課 菅原和之氏
- 昼食
- 国宝根本中堂改修工事見学
- 東塔、西塔、横川エリア巡拝のエクスカーショ



昼食：精進弁当



延暦寺会館前で

□ 国宝根本中堂改修工事見学

平成28年から10か年で根本中堂の屋根銅板葺き、廻廊屋根ののち葺の葺き替え工事、内外部の漆・彩色塗装の塗り直し工事、柱や床組等の木部の腐朽箇所の修理工事、耐震補強工事、その他工事を行う計画。

見学時は仮設工事の素屋根建設が完了、解体工事、調査と耐震診断を進捗中で、一般公開されていない部分の特別見学ができました。



□ 東塔、西塔、横川エリア巡拝のエクスカーショ

エクスカーションでは最も古い建物の重要文化財の釈迦堂を中心に諸堂が点在している修行の場である西塔エリアを巡拝させていただきました。荘厳な雰囲気漂う中、己の日々を省みる良い機会となりました。



浄土院 伝教大師の御廟所
比叡山で最も清浄な聖域



常香盤

今年の近畿建築祭は11月30日(土)奈良春日野国際フォーラムで開催されます。ご協力、ご参加の程、宜しくお願いします。

「私の好きなことは何かな」と思い、この1ヶ月に楽しんだことを列記。

11/23 奈良少年刑務所は監獄ホテルにリニューアルのため、耐震改修前の最後の完全公開の日でした。ジャズピアニスト山下洋輔の記念コンサートに出かけましたが、洋輔氏が体調を崩されキャンセル、祖父山下啓次郎の設計図を鑑賞、ファサードのディテールの素晴らしさに思わず嘆息。

11/28 2018/9/15 O P E N の福井県年縞博物館を見学。内藤廣の設計です。RC・S・Wの混構造、切妻のビックルーフを外観から見て、小屋組を想像しながら中に入ると、意外な架構が目飛び込みます。平面構成を考えればこうなるのかと、勉強になります。

12/3 大阪倶楽部は洋館の登録有形文化財です。ここでのクラシックコンサートへは、もう10年通っています。内部の凝った意匠を眺めながら、アルビノーニのアダージョに感涙しました。

12/7 當麻寺奥ノ院へ上村敦之氏の障壁画を見にいきました。丸窓の席も拝見。畳の隅を三角に切り取った床の間の発想を真似たことを思い出しました。

12/23 京都観世会館での恒例の御能鑑賞。若い3代目充基くんにすこしだけはまっています。能は佳境に入ると柱目檜板舞台の足踏み音が見るものを幽玄の世界に導きます。どうやらあの響きは床下の空甕のカラクリによるものと聞きます。私はいつか能舞台の床下を覗きたいと思っています。

こうしてみると、どうやら私の関心事は物づくりのディテールかと思えます。もう退職して久しいのですが、大学の非常勤で学生と接する時もよく言っていた覚えがあります。「いつも小さなスケッチブックを持ち歩きなさい。」「面白いものを見つけたらすぐスケッチをきなさい。きっと宝物になりますよ。」なんて……。仕事で計画を始めるとまずは好き勝手に、施主の希望なのか、私自身の想いなのか、とまかく決定。どこかで「いいな」に出会うと、いつか使いたいと頭の隅にしまっておき、後で取り出して使います。後で自分が苦しみことになると思感しながら兎も角まっしぐら、結局心配は的中、反省してももう

遅い。ということはしばしばです。

住宅設計の途中、冗談で言われた奥様のへそくり棚、話が盛り上がった結果、造ることになりました。大工さんの声「設計士は言うだけ、わしらは大変や」忘れ物をして取りに帰ると、笑声が聞こえました。

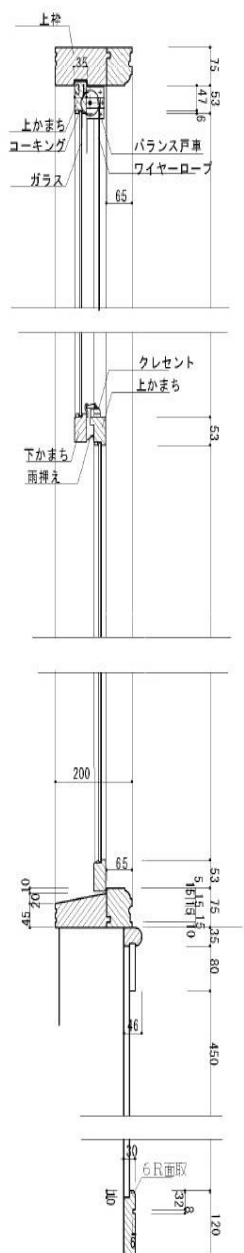
転害門隣の観光案内所、岩崎平太郎氏設計の旧南都銀行の耐震改修の仕事。平屋建ての建物の天井を撤去、キングトラスを現しにして、建物内部の既設柱に新しく柱を抱き合わせ、2階ギャラリー・吹き抜けを造りました。耐震改修は判定を受けており、金物の取付けは柱各々で違い、何枚も取付詳細図を書きました。構造部材と金物の組み合わせパズルの如きもので、工事完了後はすべて隠れてしまいます。ただ悪戦苦闘したに過ぎない思い出です。

ある施主様の趣味は釣り、押入れには釣り道具が一杯でした。新築の際、どこかに飾ろうということになりました。以前アトリエを設計した時の昇降式大型キャンバスの詳細図を取り出して、階段吹き抜けの壁に出し入れ自由な滑車付の陳列棚をつくりました。施主様お気に入りのコーナーが出来ました。

挿絵はJ R京終駅舎復元工事の際に画いた木製上げ下げ窓です。倉庫に埋もれていたものを見つけ、ディテールを採寸し図に起こしました。

こう書いていくと“好き”で楽しんでいる気もしますが、本当の所は“苦しみ”ではないかと自問自答します。

今回の原稿においては、「私の好きなことはディテールを考えること」としておきます。



新会員紹介

福永香奈建築工房 福永 香奈



独立を機に入会致しました、福永香奈建築工房の福永香奈です。よろしくお願い致します。

私は奈良市出身で近畿大学理工学部建築学科を卒業後、一年間京都大学医学部で営繕の仕事についたのち大阪の増田建築研究所に15年お世話になりました。結婚を機に退職、独立して現在は斑鳩町に自宅兼事務所を構えています。

増田建築研究所は所長と所員、2名の小さな事務所です。主に木造住宅を手掛けていました。無垢材を多用した切妻の素朴な家が多く、私もそういった設計が好きです。

所長とは NPO 法人古材文化の会でご縁があったのですが、そのつながりで佐渡島での古民家改修(4年間通いました)やヴォーリズの教会の構造調査(ツナギに手ぬぐい頭で床下や小屋裏にも入りました)など面白い経験も沢山させて貰いました。泉佐野では廻船問屋の蔵を賃貸住宅に改修し、実際に2年ほど住みました。

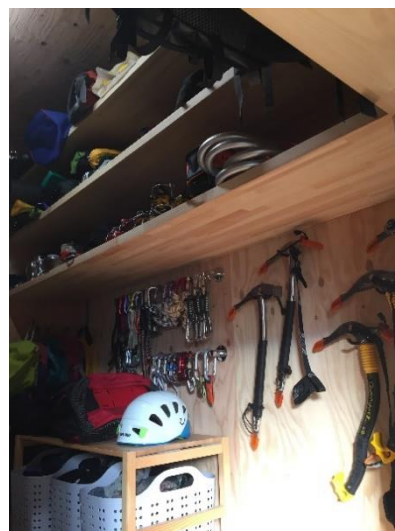
設計の仕事をしていて、一番面白いと思うのは‘どんな経験、どんな人との出会いもすべて仕事の糧になること’です。

私はすごく怪我が多いのですが、膝が曲がらない時には『階段は上りより下りが辛いんだな』『トイレの面積をいじめすぎると座るのが大変なんだな』と身をもって知りました。着付けを習ったり、登山を始めれば先輩方の収納方法が気になって見せて貰ったりもします。大使館勤務の友人からは『第四夫人までの部屋がある』なんて話を聞けたり。どんな人とも『建築』を通じて有意義な時間を過ごせるのが楽しいです。

そういった意味で2018年は40歳間近で母となり、これまで頭で理解していたことがひっくり返った一年でした。建てたばかりの自宅に『こうすれば良かった、ああすれば良かった！』が沢山出てきて、息子のお陰で設計者として少しパワーアップしたように感じています。

まだ独立したてで不安もありますが、施主さんの暮らしが豊かになるように丁寧な仕事をしていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願い致します。



我が家の山道具部屋 夫婦共通の趣味です



佐渡 古民家改修



泉佐野 廻船問屋の蔵



京都府木津川市加茂町観音寺

100年以上前に存在した、加茂と奈良を結んだ大仏鉄道の橋台。鉄道の歴史はわずか9年の間でしたが、今も周囲の風景に溶け込んで時を刻んでいます。

■撮影場所 案内図



今後の事業予定

2019年

2月

6日(水) 監理技術者講習

23日(土) 3委員会合同見学会

24日(日) [徳島・香川 四国の建築旅]

27日(水) 中大規模木造設計セミナー

3月

6日(水) 第四期建築士定期講習

19日(火) 理事会

20日(水) 監理技術者講習

編集後記



昨年末からの大寒波と共にスタートした2019年でしたが、早1ヶ月が過ぎました。昨年の世相を表す漢字が「災」となったように、昨年は日本中が災害に翻弄された一年でした。近畿圏内でもまだまだ復旧が進んでおらず、屋根に掛ったブルーシートが目立つ地域もあります。職人さんも材料も足りていないのが現状のようです。2019年は、少しでも穏やかに暮らせる年となる事を祈るばかりです。

さて、今年は春から元号が変わります。お正月の家族団欒の場でも話題となったのですが、大人たちが次の元号はなにか？と盛り上がる中、姪っ子曰く「興味が無い」との事でした。(笑) そう言えば私も、昭和から平成に変わる折りは学生で特に何も考えていませんでした。やはり歳を重ねた結果でしょうか、元号の改定を前に自分が平成をどう過ごしたか、どんな時代だったか、気付けば改めて思い返していました。私にとっての「平成」は、大半を社会人として過ごした時代でしたので、社会の厳しさの中でもがき苦しんだ時代だったと思います。ただ、苦しい中でも沢山の方との出会いがあり、いつもその出会いに助けられていたような気がします。私が今も建築の仕事が続けられているのも、出会った方々のおかげだと思っています。皆様の「平成」はどのような時代だったのでしょうか？新元号を予想しながら、この30年を振り返ってみてはいかがでしょうか？

前号の「フォトジェニック」に続き、本号より新シリーズ「職人さんに聴く!!」が始まりました。今年のフープも盛り沢山の内容をお届けして行きたいと思っておりますので、本年もどうぞ宜しくお願い致します。

最後になりましたが、年末年始のお忙しい折に御寄稿頂いた方々に深く御礼申し上げます。

(瓶割 環)